

2020年7月8日（収録）第47回研究報告会 オンライン開催
宿利会長 開会挨拶

皆様こんにちは。

一般財団法人運輸総合研究所会長の宿利正史です。このたびは、第47回研究報告会にご参加いただき、誠にありがとうございます。

さて、私ども運輸総合研究所では、新型コロナウイルス感染症の拡大を受けて、3月以降国内外におけるすべてのシンポジウムやセミナー等の開催を延期してまいりました。この研究報告会も、当初の5月18日開催の予定を延期して、本日、感染防止に配慮して、このようなオンラインでの開催といたしました。

恒例の特別講演は、次回以降再開することとし、今回は当研究所の5名の研究員による研究成果の報告に限ることとしております。本日の研究報告のねらいとポイントについては、この後、研究の指導者の立場から山内所長よりお話しいたします。私からは、この研究報告会が今年度の最初の対外的な行事となりますので、当研究所の今年度の活動方針についてお話をしたいと思います。

当研究所では、「学術研究と実務的要請の橋渡し」という設立の原点を踏まえ、「世の中の役に立つ」、「使いものになる」成果を実現するために、昨年度に引き続き、真にニーズが高い分野に活動を集中するとともに、国際的な活動や海外との連携の強化に取り組んでまいります。

今年度は、特に次の4つの事項に重点を置いて、研究調査その他の活動を行っていく予定です。

まず第一に、「国際的な活動や海外との連携の一層の強化」です。

昨年度は、国内において「鉄道整備と沿線開発に関する研究」を行い、その成果をASEAN3か国の首都バンコク、マニラ、ジャカルタにおいてセミナーの形で発表するとともに、「国際航空シンポジウムーアジア・太平洋地域の国際航空の将来ー」を米国ワシントンDCと東京で開催しました。また、ワシントン国際問題研究所における研究調査の成果を国内の運輸政策コロキウムで発表する等の活動を行うとともに、国内外の研究機関との連携強化に努めてまいりました。

今年度は、年内を目途に、運輸総合研究所 ASEAN・インド事務所（仮称）をタイのバンコクに開設し、ASEAN及びインドを対象に研究調査や情報収集を行うとともに、シンポジウム・セミナー等の開催を通じて、同地域の政府、学界、運輸・観光分野の実務者等への有益な情報発信とネットワークの構築を行います。加えて、ワシントン国際問題研究所の活動を一層充実させることにより、北米からASEAN・インドまでを視野に入れた広域的な活動を行うこととしています。

第二に、「研究調査の充実」です。

昨年度は、国内外にわたり、鉄道、航空、モビリティ及び公共交通、物流、観光、セキュリティなどに関する研究調査を実施してきました。

今年度については、モビリティや観光分野に引き続き重点を置くとともに、航空分野や海事分野におけるCO₂問題などの新たな分野に取り組んでまいります。さらに、物流等、従前から取り組んでいる分野についても、より一層の充実を図ります。

第三に、「ポスト・コロナを見据えた活動」です。

今回の新型コロナウイルス感染症の拡大に対しては、「移動の制限」と「接触機会の排除」が有効な対策とされ、私たちは、外出・旅行の自粛や在宅勤務の実施などの対応を余儀なくされました。この結果、交通運輸・観光産業に携わる皆様は、今その甚大な影響に苦闘しておられることと思います。

私は、「ポスト・コロナ」・「アフター・コロナ」においては、人々や社会は、単にコロナ前の状態に戻るということにはならず、今回の経験を経て、過密や集中を避けつつ、生活や仕事の質を高めていくことに意を用い、多様な価値観に根差した「新たなライフスタイルやビジネススタイル・ワークスタイル」をそれぞれに模索していくことになるだろうと見ています。そして、その過程で、「移動」や「観光」は、その意義や価値やあり方を改めて見直されることになると考えています。私どもは、これからの新たな事態や将来の姿を十分視野に入れつつ、「新たなモビリティ」や「持続可能な観光」の進展・定着など、世の中に求められる重要なテーマを選び出しながら、今後の活動を行っていくつもりです。

第四は、「新たな情報発信方法の模索」です。

これまでシンポジウム、セミナー等を通じて、会場に大勢の皆様方にお越しいただいておりましたが、新型コロナウイルス感染症の拡大は、これに「待った」をかけることとなりました。今回のオンラインでの研究報告会は、新たな情報発信の第一歩となります。私どもは、今年度これから様々なシンポジウムやセミナー等を開催する予定ですが、その際には、色々な可能性を検討し、皆様方に広く参加していただき、かつ、満足していただけるよう新たな情報発信方法を探っていく所存です。

最後に、本日の研究報告会の開催につきましては、日本財団の特別の支援を受けて実施するものであることを申し添え、御礼を申し上げます。当研究所といたしましては、今後とも、皆様のご期待に応えるべく努力を重ねてまいりますので、引き続き、ご指導、ご支援を賜りますようよろしくお願い申し上げます。 (以上)